

担い手との意見交換状況とその対応

開催年月	場所	意見交換した担い手等	主な意見内容	対応等
平成 30 年 5 月	浜松市	果樹産地協議会役員	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の研修を受け入れても、研修終了後、すぐに営農できる農地がなく農地確保に苦慮している。 ・機構で一定期間保有できる仕組みを作ることはいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者向けの農地確保は行っており、実績としては 1 件ある。 ・ただ、農地の探索は地元でお願いしたい。
平成 30 年 8 月	牧之原市	青年農業士茶部会	茶農協の株式会社化と株式会社による茶生葉生産を計画しており、組合員から会社への茶園の貸借にあたって中間管理事業を活用したい。	中間管理事業の活用については最大限支援していく。地区担当として機構の駐在員が 2 名常駐しているので、気軽に相談していただきたい。
平成 30 年 8 月	菊川市	茶担い手 夢咲：茶管理組織 研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・機構関連農地整備事業の実施状況はどうか？ ・所属する茶工場の運営は、今のところなんとかなっているが、10 年先は分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30 採択予定 2 地区。H31 以降は各地で検討中。地元の農業者が集まり、図面を見ながら検討してほしい。中間管理事業の活用が必須となる。 ・茶工場はなんとかなっていると思っ ていても、地域の中は不安が多いのが実態。10 年先の農地を確保するためにも中間管理事業の活用を検討してほしい。

開催年月	場所	意見交換した 担い手等	主な意見内容	対応等
平成 30 年 8 月	静岡市	県農業経営士茶部 会	<ul style="list-style-type: none"> ・面積拡大したいが、面積を大きくした場合には茶工場の生産能力の増強も必要であるが、茶価が厳しく、規模拡大の投資については検討の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本県は茶園も含めた樹園地の面積が全耕作面積の 40%ある。農地集積を推進するためには茶園の集積を推進が必要であり、また耕作放棄地が増えていることも懸念している。農林事務所と連携して茶工場の整備の補助事業等も活用とともに、茶園集積について進めていきたい。
平成 30 年 10 月	御殿場市	農業参入企業（1 社）	<ul style="list-style-type: none"> ・中間管理事業を活用しワイン用ブドウの生産を開始し、最終的にはワインを生産する予定。試験栽培中であるが、今後、規模拡大していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町と連携を取りながら、農地情報の収集に努める。
平成 30 年 11 月	三島市	農業法人（1 法人）	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の研修を受け入れており、研修終了後、すぐに生産を開始できるように農地のストックを考えている。農地の方も見つけてあり、対応は可能か？ ・可能な場合は就農までのスケジュールを教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在 1 件、新規就農者向けのストックを実施しており、対応は可能である。 ・市と連携し対応していく。
平成 30 年 12 月	静岡市	県農業法人協会	<ul style="list-style-type: none"> ・中間管理のほかに円滑化や基盤法による貸借も行っている。中間管理事業は農地や賃料の管理が楽である。 ・上記したように契約が色々あるので、最終的には中間管理でまとめたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸借面積が大きくなると農地把握や賃料の支払いなどが大変との意見は聞いている。今後も事業のご活用を願いたい。